

団体名	国立大学法人 宮城教育大学							
事業名	東北の復興から学ぶー留学生と地域住民との交流ー							
実施期間	平成28年6月4日(土)・6月5日(日)							
場 所	宮城県南三陸町・松島町							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	16	0	2	7	3	5	0	33名

### <実施内容>

宮城教育大学は、東日本大震災による甚大な被害を受けた宮城県仙台市にあります。留学生たちにとって東日本大震災のことも被災地のことも知る機会が少ないため、本学では毎年、被災地を訪問して震災の恐ろしさや復興について語り部から学び、甚大な被害が出た地域を自分の目で見て、そこに暮らす人々のことを少しでも知り、心を寄せるとともに、母国の人々にも被災地で見て感じたことをぜひ伝えてほしいという願いを込めて、本事業を開催しています。

平成28年は6月4日(土)、5日(日)の1泊2日で実施し、留学生16名と、日本人学生2名が参加しました。

6月4日(土)は、南三陸町にて漁業体験をし、水産資源の豊さと養殖漁業のしくみを実感しました。特に、海の復興状況や漁師の生活の変化、地域の伝統芸能保存などの話を聞きました。また、南三陸町の特産物である、ホヤやカキ、ホタテ、ウニなどを試食しました。

午後からは復興の進む町の様子を現地見学しながら被災前と被災後、自分の命を守る防災意識などについて語り部から学びました。

夕方からのホームステイでは、被災地で暮らす人々の生活の様子などを学びました。

6月5日(日)は、ホームステイ先のご家族とのお別れ式を行った後に松島町を訪れ、被災した場所や復興が進む観光地の様子や国宝・瑞巖寺を見学し、日本の自然、歴史、文化について学びました。

2日間を通して、留学生にとってはもちろんのこと、ともに参加した日本人学生にとっても、生活を支える産業や文化について地域の住民と触れ合いながら学ぶことができた、大変意義のある学習機会となりました。

### <記録写真>



洋上にて養殖の見学



語り部からの講話、被災地見学



ホームステイ先のみなさんと

### <参加者からのコメント>

ポーティ・ホン・ハーさん(ベトナム)/VO THI HONG HA

3. 11から5年経ったが、人々の悲しい気持はあまり変わっていないような感じがし、まるで自分のことのような苦しい気持ちになった。当時の悲しみ・苦しみ・つらい体験をたくさん聞いた。こういう貴重なお話が聞け、とても良い経験になった。様々な知識を身につけ、多くの日本人と会話もできたりしたので、本当に嬉しかった。被災地の被災・復興の状況を見学し、住民の人のお話も聞け、多くのことが勉強になった。地震や津波などがないベトナムだが、毎年台風や洪水も起きる可能性が高いので、人間の命を守ることが一番大事なことだと分かった。

トトリ ブリアン キミアさん(米国)/Tottori Brianne Kimie

今回一番楽しみにしたことは南三陸でのホームステイでした。この研修で楽しんで色々なことを学びました。東日本大震災で特に非常に荒れたところはほとんど知らなくて現在どうしているのかさえも知りませんでした。体験した人の話を聞き、写真を見て本当にこんなことがあったなんて信じられないほど驚きました。ホームステイ先の家族の体験や話も聞いたら、あんな恐ろしいことに遭ったのに平凡に暮らすなんてとても強い人たちだと思い、本当に尊敬します。この研修はとても感情的で勉強になりました。またこの機会があれば、参加したいと思います。